履　修　手　引

2026 年度

令和 8 年度

滋賀大学大学院教育学研究科

滋賀大学特別支援教育専攻科

目　　次

滋賀大学大学院教育学研究科関係

【専門職学位課程（教職大学院の課程）高度教職実践専攻】

Ⅰ　コースの概要---------- 5

Ⅱ　高度教職実践専攻の教育課程等
1. 修学の形態・方法---------- 8
2. 履修基準---------- 9
3. 履修方法等---------- 9
4. 開設授業科目---------- 10
5. 修業年限---------- 10
6. 単位の認定---------- 10
7. 研究指導教員---------- 11
8. 修了の認定---------- 11
9. 長期履修学生制度について---------- 11
10. 教育学部開設授業科目の履修について---------- 11
11. 成績の照会について---------- 12
12. 教育方法の特例措置について---------- 12
13. 教育職員免許状取得要件について---------- 12
14. 専修免許状への「教育データサイエンス」付記について---------- 13
15. 台風等の場合における授業、定期試験の取扱いについて---------- 13

Ⅲ　高度教職実践専攻開講授業科目表---------- 17

Ⅳ　課題解決研究指導教員名簿---------- 25

滋賀大学特別支援教育専攻科関係

Ⅰ　特別支援教育専攻科の教育課程等
1. 受講登録について---------- 29
2. 定期試験等について---------- 29
3. 追試験について---------- 30
4. 単位の認定について---------- 30
5. 研究論文について---------- 30
6. 成績の照会について---------- 30
7. 教育職員免許状について---------- 30
8. 授業時間について---------- 31
9. 台風等の場合における授業、定期試験の取扱いについて---------- 31

Ⅱ　特別支援教育専攻科開講授業科目表---------- 33

Ⅲ　特別支援教育専攻科開講授業科目の概要---------- 34

Ⅳ　特別支援教育専攻科授業時間割---------- 36

その他

Ⅰ　関係学内諸規程---------- 37

滋賀大学大学院教育学研究科

専門職学位課程高度教職実践専攻関係

令和８年度　行事予定（高度教職実践専攻）

月　　日	行　　事　　内　　容
4月 6日(月)	令和８年度入学式
7日(火)	学部・専攻科・大学院オリエンテーション
7日(火)～14日(火)	春学期授業科目履修登録期間
8日(水)	春学期授業開始
29日(水・祝)	通常授業日
5月 7日(木)	振替授業日（月曜日の授業を実施）
7日(木)～13日(水)	履修科目の取消期間（春学期科目・通年科目）
8日(金)	振替授業日（火曜日の授業を実施）
31日(日)	開学記念日
6月30日(火)	主研究指導教員届提出締切【第１年次生】
7月28日(火)～ 8月4日(火)	春学期定期試験（8月４日(火)は試験予備日）
8月 5日(水)～ 9月30日(水)	夏季休業・集中授業
9月24日(木)～10月 7日(水)	秋学期授業科目履修登録期間
10月 1日(木)	秋学期授業開始
11月2日(月)～6日(金)	履修科目の取消期間（秋学期科目）
23日(月・祝)	通常授業日
11月上旬～中旬の土日	大学祭
12月24日(木)	振替授業日（月曜日の授業を実施）
12月26日(土)～1月3日(日)	冬季休業（集中講義）
令和9年	
1月 4日(月)	授業再開
15日(金)	大学入学共通テスト準備（休講）
16日(土)～17日(日)	大学入学共通テスト
27日(水)～2月3日(水)	秋学期定期試験（2月３日(水)は試験予備日）
2月25日(木)～26日(金)	学部前期日程入学試験
3月12日(金)	学部後期日程入学試験
24日(水)～26日（金）　※予定	学位授与式

1）上記日程は、変更することがあるので、**掲示**及び**教務システム(SUCCESS)**の連絡に注意して下さい。また、正課授業関係全日程を包括したものではありませんので、他の配布物や掲示等にも注意して下さい。
2）令和８年度は4月29日(水)昭和の日及び11月23日(月)勤労感謝の日については、通常どおり授業を実施します。
3）5月7日(木)、8日（金）、12月24日(木)は振替授業日とし、次のとおり授業を行います。

（5月7日(木) → 月曜日の授業を実施
5月8日(金) → 火曜日の授業を実施
12月24日(木) → 月曜日の授業を実施）

4）7月11日、18日、12月19日、1月23日の各土曜日について、場合により補講を行うことがあります。
5）集中講義の履修取消の申出期限は、各授業科目の開講日（初日）の翌（平）日の正午までです。

Ⅰ　高度教職実践専攻の概要

1. 学校経営力開発コース

学校経営力開発コースでは、学校単位はもちろん地域レベル（中学校区や自治体等の圏域）も含む学校改善を牽引できるトップリーダー（地域リーダー）の養成を目指します。そのために、学校や地域レベルの改革の理念の構築と具体化にかかる教育政策立案能力・学校経営企画力、教職員集団の力量を高めながら合理的に運用する学校マネジメント力、改革の理念を学校内で共有及び地域に発信し血の通った協働実践を創出するコミュニケーション力、地域連携協働力を育成します。

本コースで育成しようとする資質能力は、滋賀県教育委員会策定の「滋賀県教員のキャリアステージにおける人材育成指標」において管理職に求められている「学校教育の原動力」「学校経営の推進力」「関係機関との連携力」の３つの資質能力と連動しています。とりわけ滋賀県では、市町等地域レベルでの課題解決が期待される教育課題が多いことから、学校経営力開発コースにおいては、地域の教育課題を一学校の単位を超えて俯瞰的に把握し解決する課題解決力や、地域と歩む学校づくりを推進する連携協働力の育成に、より力を注ぎ、重点を置きます。

2. 教育実践力開発コース

教育実践力開発コースでは、新たな教育実践を追究し、学校内外で推進できるミドルリーダーの養成を目指します。そのために、授業改善やカリキュラムマネジメントを行うカリキュラム開発力、広い視野から子どもを多面的に捉えて学びの基盤をつくる生徒指導や学級経営を行う実践力、学校や地域との連携力、若手教員の実践力向上に取り組む協働力などを育成します。

本コースで育成しようとする資質・能力は、滋賀県教育委員会策定の「滋賀県教員のキャリアステージにおける人材育成指標」の教諭職・第Ⅱから第Ⅲステージの指標とされる「学年・分掌等を見据えた」、「学校全体を見据えた」実践力に連動するものです。このステージのミドルリーダーには、多岐にわたる領域についての見識と実践力が不可欠であり、とりわけ自らの実践力に応じた特定の領域におけるより高度な実践を展開する力が求められます。本コースでは、各自のこれまで 10 年前後にわたる教職経験を振り返り、現場の現状・可能性を省察し、自らの実践課題を選択し追究する「教育実践課題解決」を中軸に据え、より高度な教育実践力を校内や地域で協働的に展開していけるように力を注ぎます。

3. 授業実践力開発コース

授業実践力開発コースは学部新卒学生を対象とし、確実な授業実践力、教科指導力、学級経営力を備え、新しい学びを推進できる新人教員の育成を目指します。そのためにこのコースで育成する資質能力は、学部の学修を発展させ、科学的・俯瞰的な視点から授業をデザインする力、同僚や保護者等との協働力やコミュニケーション力等です。これらの資質能力は、滋賀県の「人材育成指標」の準備ステージ（採用前段階）を超えた第Ⅰステージにおける「学級・教科担当等を中心にした実践」につながり、その中で求められている「教材研究力」、「学習形態の工夫や適切な指導方法」、「児童生徒理解」、「同僚とのコミュニケーション」、「保護者との連携」等とも連動しています。

4. ダイバーシティ教育力開発コース

ダイバーシティ教育力開発コースでは、多様な教育的ニーズを抱える子どもの育ちを広い視野から的確に捉え、発達を支える専門性を備えた教員の養成をめざし、特別支援教育・インクルーシブ教育の推進力、関係者・関係機関と連携しながら学校を支援できるコーディネート力、多様な教育的ニーズに応じた個別の指導計画や教育支援計画等の編成力、心理検査の知識と理解をベースとしたアセスメント力を育成します。本コースで育成しようとする資質能力は、滋賀県が策定している「滋賀のめざす特別支援教育ビジョン（実施プラン）」（平成 28 年３月）において具体的に取り組むべき事項として示されている「発達段階に応じた指導の充実」「教員の指導力や専門性の向上」「教育における連携（役割分担）の推進」等に直結します。また、日本語指導が必要な外国人児童生徒等（日本国籍の児童生徒を含む）が滋賀県において近年再び増加しており、今後さらに増加が見込まれることから、「学校におけるきめ細かな支援の充実」と「関係機関等との連携による教育機会の確保と共生」の必要性が示されていること（令和元年度第２回滋賀県総合教育会議資料）とも連動しています。

Ⅱ　高度教職実践専攻の教育課程等

【ディプロマ・ポリシー】

教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）では、以下の能力を身につけた学生に対して、教職修士（専門職）の学位を授与する。高度教職実践専攻では、以下の能力を修得することを修了認定の基準とする。

1. 学び・成長し続けるための自己省察力
2. 新たな学びを生み出すための学校課題解決力
3. 同僚教師、専門家、地域との協働力
4. データサイエンス基礎力
5. 教職経験に応じて高めるべき能力：学校経営企画力（学校経営力開発コース）、新しい学びの構想力（教育実践力開発コース）、科学的・俯瞰的な視点から授業をデザインする力（授業実践力開発コース）、子どもの発達を支える専門的能力（ダイバーシティ教育力開発コース）

【カリキュラム・ポリシー】

教育学研究科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方法）

本研究科では、学位授与の方針に基づいて、高度専門的職業人の育成を目的として考案された教育課程にしたがい教育と研究指導を行う。この教育課程は、各専攻が求める高度な専門知識・技能および実践的指導力を獲得するために編成された科目群から成る。

高度教職実践専攻（教職大学院）のカリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーとして掲げた修了認定の基準を実現するために、以下の方針に従って、高度教職実践専攻のカリキュラムを編成する。

1. 教育課程編成の一般原則

   本専攻の教育課程は、次の 5 つの視点で編成する。

   ①　現代的な諸課題をテーマに、最新の専門理論・技術と実践を往還
   ②　時代が求める教育を地域に応じて展開できる理論の修得と実践
   ③　地域の学校・子どもの実態、必要性に応じた実践を行うための理論・技術の修得
   ④　地域の関係機関との連携による教育実践に関する充実した実習
   ⑤　到達目標の達成度にもとづいた成績評価

2. 共通科目の編成方針

   教職大学院の共通 5 領域（教育課程の編成及び実施、教科等の実践的な指導方法、生徒指導及び教育相談、学級経営及び学校経営、学校教育と教員の在り方）を履修するとともに、滋賀大学の特色を生かし、滋賀の教育課題、ダイバーシティ教育、データサイエンス等の科目を編成する。

3. コース科目の編成方針

   学校経営力開発コースでは、新たな時代の学校経営の構想・企画にかかわる、地域教育課題の課題解決力、学校マネジメント力、地域連携協働力を育成するコース科目を編成する。

   教育実践力開発コースでは、新たな学びを構想し、その学びを生み出す授業研究や教育課程編成をリードできる能力、教員集団をまとめて協働しながら学校課題に取り組める能力を育成するコース科目を編成する。

授業実践力開発コースでは、教科・学級担任としての堅固な実践力を備えた教員に求められる授業実践力、授業研究力、その基盤になる学級経営力を育成するコース科目を編成する。

ダイバーシティ教育力開発コースでは、多様な教育的ニーズを抱える子どもの育ちを広い視野から的確に捉え、発達を支える専門性を備えた教員に求められる能力を育成するコース科目を編成する。

また、各コースにおいて、データサイエンス基礎力の向上として「エビデンスベースト思考演習」「学校教育データ分析実践演習」「ICT ツール利用の理論と実践」「Society 5.0 時代の学習支援」の４つの柱を設定した教育課程編成を行う。

4. 実習科目の編成方針

実習科目は実践課題解決、経営課題解決、授業実践、ダイバーシティ教育、特別支援、研修開発、地域協働、学校支援等の実習を設定し、所属するコースや自ら選択した教育課題に即して、実習を複数組み合わせて履修できるように教育課程編成を行う。実習科目間において連携を図ることにより、コース間の実習経験の交流を通して学び続ける教師としての成長過程を、それぞれの立場で具体的にイメージさせる科目を編成する。

5. 教育方法

授業科目のテーマと方法につながるように、院生の学習動機や研究の問題意識を強く触発するところから始め、事例研究、グループ討議、模擬授業、フィールドワーク、ワークショップ、反転授業などを適宜組み合わせることにより、次の４点を重視して、能動的で協働的な学びの場を設定する。すなわち、①課題解決型の授業構成、②理論知と実践知を往還する学習サイクル、③フィールドワークによる課題の発見から実践研究の課題化・探究へのプロセス、④討論・協議の場の効果的な設定による院生同士の課題の共有化と深化、を重視する。

6. 学修成果の評価方法

成績評価は、成績評価基準を設定し、公正な成績評価を厳格かつ客観的に実施する。シラバスの項目「成績評価の基準」には、「授業の到達目標」欄に記載した各到達目標について、「成績評価の方法」欄に記載したいずれの方法で達成度を図るのかを記述する。また、「授業の到達目標」は、ディプロマ・ポリシーの５つの目標との対応関係を記述する。なお、「成績評価の基準」は、授業の到達目標としての最低限要求される水準及び、さらに高い評価を得るためにはどのような能力を表出させればどのように評価されるか具体的に記載し、学生にとっての学習の指針とする。各授業科目の成績評価は、達成目標の達成度を測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告など、多様な方法の中から当該授業科目に適切な方法を選択又は組み合わせて行う。

1. 修学の形態・方法

(1) 授業時間帯

第 1 時限（8:50～10:20）から第５時限（16:10～17:40）までに授業科目を配置しています。

(2) 修学方法

Ⅲの開講授業科目表の年次配当に基づき、表の授業科目の中から、表の下の注に記された条件により、46 単位以上を修得するものです。

2. 履修基準（最低修得単位数）　（滋賀大学大学院教育学研究科規程第6条参照）

（数字は、単位数を示す。）

授業科目区分等＼コース名			学校経営力開発	教育実践力開発	授業実践力開発	ダイバーシティ教育力開発
必修	共通科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	4	4	4	4
		教科等の実践的な指導方法に関する領域	4	4	4	4
		生徒指導及び教育相談に関する領域	4	4	4	4
		学級経営及び学校経営に関する領域	2	2	2	2
		学校教育と教員の在り方に関する領域	4	4	4	4
必修	実習科目		10	10	10	10
選択	コース別選択科目		18	12	18	18
	コース間連携科目			6		
合計			46	46	46	46

3. 履修方法等

学生は、いずれかのコースに所属し、そのコースの教員の指導のもとに、履修基準に定める必要な単位を修得しなければなりません。

(1) 受講登録について

① 履修手引のⅢ高度教職実践専攻開講授業科目表により受講科目を決定し、所属するコースの教員の確認を得て受講登録を所定の期日までにおこなうこと。1学期に履修登録できる単位数に上限（25単位）があるので注意すること。（教育学研究科規程第6条の2参照）

② 学年の途中において新しく開講される科目については、期間を定めて受講登録を認める。

ア　重複申請は認められない。

イ　受講申請をしていない科目の単位は与えられない。

③ 受講登録をした授業科目について、受講を取り消したい場合は、別に定める期間内に登録を取り消すことができる。

(2) 定期試験等について

① 定期試験は、各科目についてその年度の授業担当教員が有資格者に対して行う。

② 受験資格は、受講登録した科目の授業等に開講時数の2／3以上出席した者に与えられる。

③ 試験時間割は、試験実施（第1日）の1週間前に発表する。

④ 特定の科目については、研究報告又は作品の提出をもって試験に代えることがある。

⑤ 試験において不正行為のあった場合には、研究科委員会の議を経て処置する。

(3) 追試験について

① 定期試験当日不時の災害、病気、二親等以内の親族の死亡、その他止むを得ない事情があり受験できなかった者については、願い出により、特定の科目につき教授会の議を経て追試験を行うことがあります。

② 上記の場合の願い出は、受験できなかった科目の試験実施後、3日以内（教務係窓口の休業日を含む）に願書及びその事由を証明する書類を教務係に提出してください。ただし、2回生は可能な限り早急に提出してください。

③ 追試験は、原則として定期試験終了後1か月以内に行うものとします。
ただし、秋学期（後期）末試験についてはこの限りではありません。

(4) 授業時間について

高度教職実践専攻の授業時間割は、学期を問わず次のとおりとします。

月～土曜日

第1時限	8時50分	～	10時20分
第2時限	10時30分	～	12時00分
第3時限	12時50分	～	14時20分
第4時限	14時30分	～	16時00分
第5時限	16時10分	～	17時40分

集中講義：土曜日・日曜日、夏季・冬季休業期間等
（事情により、これ以外の時間に行うこともある。）

4. 開設授業科目

開設する授業科目は、Ⅲ高度教職実践専攻開講授業科目表のとおりとします。

5. 修業年限 ＊長期履修学生の修業年限、在学年限は別に定めます。

修業年限は、2年とします。在学期間は4年をこえることはできません。

6. 単位の認定 （教育学研究科規程第12条参照）

成績の評価は、秀、優、良、可、不可とし、可以上を合格とします。
授業科目の成績の評語（評価）、得点（評点）、及び評価基準は次表のとおりです。

区分	成績の評語（評価）	評価基準	対応する得点（評点）
合格	秀	到達目標を達成し、極めて優秀な成績を修めている。	90 点以上
	優	到達目標を達成し、優秀な成績を修めている。	80 点以上 90 点未満
	良	到達目標を達成し、良好な成績を修めている。	70 点以上 80 点未満
	可	到達目標を達成している。	60 点以上 70 点未満
不合格	不可	到達目標を達成していない。	60 点未満

7. 研究指導教員

指導教員の承認を受け、入学年の6月30日までに教務係に届け出てください。届け出締切日が休業日の場合は休業日直後の平日までとなります。

8. 修了の認定　（教育学研究科規程第13条参照）

研究科に2年（長期履修学生は認められた修業年限の年数）以上在学し、各コースで定めた授業科目46単位以上を修得した者には、教職修士（専門職）の学位を授与します。なお、教育実践課題解決研究Ⅳまたは Ⅷにおいては、「教育実践課題解決研究報告書」及びその発表を課します。

9. 長期履修学生制度について

この制度は、職業を有している等のために標準の修業年限で修了することが困難な学生を対象としています。事情に応じて標準の修業年限（2年）を超えて一定の期間（3年または4年）にわたり計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修学生として認められた場合の授業料は、2年間（標準の修業年限）分の授業料総額を、あらかじめ認められた一定の修業年限で除した額にして、それぞれの年に支払うことになります。

申請するための資格及び時期等については、関係規程を参照してください。

10. 教育学部開設授業科目の履修について

本学大学院に在学しながら教育学部の授業科目を科目等履修生として履修し、教育職員免許状（一種免許状）の取得に必要な科目を取得することができます。また、一種免許状が取得できた場合は、これを基礎免許状にすることで、専修免許状を取得することが可能です。

教育職員免許状の取得を目的とする場合は、学部授業の履修に係る経費は免除されます。ただし、高度教職実践専攻の教育・研究に支障のない範囲で、事前に本学の所定の手続きを経て許可された方に限ります。また、学部の授業科目の履修に当たっては、次のような制約がありますので注意してください。

（1）1年間に履修できる単位数は14単位以内です。
（2）大学院と学部の授業科目の開講時間は重複することがあります。
（3）教育学部が開講している授業科目のうち、受講制限が設けられているものがあります（科目等履修生の受入れを認めていない科目や、学部学生の受講を優先する科目もあります）。
（4）教育実習科目については、実習校の受入状況により、履修が認められない場合があります。

11. 成績の照会について

学習効果を高めることを目的として、成績開示日（春学期成績：9 月中旬、秋学期成績：3 月中旬）以降、所定の期間に、その科目の成績理由の開示を申し出ることができます。

希望がある学生（科目等履修生を含む。）は、期限内に教務係へ申し出てください。ただし、非常勤講師の先生の担当科目については、期限一週間前までに申し出てください。

なお、具体的な期間については、掲示等に注意して下さい。

12. 教育方法の特例措置について

現職教員に対しては、大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例措置を適用し、現職教員等が高等教育を受ける機会を拡大するための措置を実施しています。

教育方法の特例措置の実施方法は次のとおりです。

(1) 現職派遣教員

①修学年限 2 年のうち、第 1 年次は現職を離れて通常の時間帯に通学履修をし、授業、実習、研究指導を受けます。

②第 2 年次は現職に復帰し勤務しながら、定期的または集中的に実習及び研究指導を受け、自らのテーマに関する「教育実践課題解決研究報告書」を作成します。

(2) 大学院修学休業制度による現職教員

一種免許状又は特別免許状を有する公立学校の教員が、専修免許状の取得を目的として 1 年を単位とする 3 年を超えない期間休業して大学院に在学します。

13. 教育職員免許状取得要件について

(1) 教育職員免許状の所要資格は、教育職員免許法別表第一（第 5 条関係）の規定による。

(2) 高度教職実践専攻で取得できる専修免許状の種類及び教科は別表 1 のとおりである。

(3) 高度教職実践専攻で開設する授業科目が、教育職員免許法別表第一第三欄に定める教科及び教職に関する科目のどの免許状の種類の単位に該当するかは授業科目表（免許に関する区分）のとおりである。各自が取得しようとする専修免許状に照らして必要な単位数を修得すること。

なお、各コースにおける履修基準を満たしたからといって、専修免許状の所要資格を取得したことにはならないこともありうるので、各自が計画的に必要な単位を修得すること。

別表 1

高度教職実践専攻で取得できる専修免許状の種類及び教科

専修免許状の種類	教科	基礎免許状（既に取得していることを必要とする）	※最低必要単位数	
			教科及び教職に関する科目	特別支援教育に関する科目
幼稚園教諭		幼稚園教諭の一種免許状を有すること	24	
小学校教諭		小学校教諭の一種免許状を有すること	24	
中学校教諭	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、宗教	中学校教諭（該当教科）の一種免許状を有すること	24	
高等学校教諭	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、宗教	高等学校教諭（該当教科）の一種免許状を有すること	24	
特別支援学校教諭（知的障害者、肢体不自由者、病弱者）		養護学校教諭一種免許状又は特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者、肢体不自由者、病弱者）を有すること		24

※　最低必要単位数は、免許法に定める最低必要単位数から一種免許状に係る単位数を差し引いた単位数であり、本専攻で修得することを要する。

14. 専修免許状に「教育データサイエンス」を付記するための条件と履修プログラムについて

「教育データサイエンス」に関する所定の要件を具えた場合、専修免許状に「教育データサイエンス」と付記されることになっています。このための条件・履修プログラムは別表 2 のとおりです。

15. 台風等の場合における授業、定期試験の取扱いについて

大津キャンパスの台風等の場合における授業の休講については、SUCCESS の「お知らせ」及び滋賀大学のホームページ「休講・補講等講義情報に関するお知らせ」の「大学院教育学研究科専門職学位課程」より確認できます。

滋賀県南部（近江南部、東近江、甲賀）又は市町村（大津市南部、草津市、守山市、栗東市、野洲市、近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町、甲賀市、湖南市）のいずれかに暴風警報、暴風雪警報または特別警報（大雨、暴風、暴風雪）が発表された場合は、当日のその後に開始する授業（定期試験を含む。）を休講とする。

ただし、午前 7 時までに警報が解除された場合は、第 1 時限目の授業から実施する。

また、午前 10 時までに警報が解除された場合は、第 3 時限目の授業から実施する。

別表 2

専修免許状に「教育データサイエンス」を付記するための条件と履修プログラム

(1) 専修免許状に「教育データサイエンス」を付記するための条件

高度教職実践専攻の修了者で、「教職大学院 教育データサイエンス人材育成プログラム」に関する下記履修プログラムの単位を修得した者

(2) 履修プログラム（12 単位以上）

大分類	小分類	授業科目名	必修選択の別	担当者名	単位数
基礎力に関する科目	教育 DS 基礎力（4 単位）	学校教育におけるデータサイエンス	必	若松、他	2 単位
		学校教育におけるデータサイエンス演習	必	久保、他	2 単位
	ICT 基礎力（1 単位）	メディア活用実践研究	必	岩井、他	1 単位
教育 DS の理論に関する科目	教育 DS 分析基礎力（2 単位以上）	教育実践のためのデータ分析（現職院生対象）	選必	詫摩、他	2 単位
		授業実践のためのデータ分析（学卒院生対象）	選必	徳田、他	2 単位
		プログラミング教育の実践と教材開発	選必	岳野、他	2 単位
	教育 DS 分析応用力（2 単位以上）	教育実践のためのデータサイエンス（現職院生対象）	選必	詫摩、他	2 単位
		授業実践のためのデータサイエンス（学卒院生対象）	選必	徳田、他	2 単位
教育 DS の実践に関する科目	教育 DS 分析実践力基礎（2 単位以上）	経営課題解決発展実習Ⅱ	選必	藤村、他	2 単位
		実践課題解決発展実習Ⅱ	選必	辻、他	2 単位
		授業実践発展実習Ⅱ	選必	糸乗、他	2 単位
		ダイバーシティ教育発展実習Ⅱ	選必	松島、他	4 単位
	教育 DS 分析実践力応用（2 単位以上）	教育実践課題解決研究Ⅴ（経営）	選必	藤村、他	1 単位
		教育実践課題解決研究Ⅵ（経営）	選必	藤村、他	1 単位
		教育実践課題解決研究Ⅶ（経営）	選必	藤村、他	1 単位
		教育実践課題解決研究Ⅷ（経営）	選必	藤村、他	1 単位
		教育実践課題解決研究Ⅴ（教育実践）	選必	辻、他	1 単位
		教育実践課題解決研究Ⅵ（教育実践）	選必	辻、他	1 単位
		教育実践課題解決研究Ⅶ（教育実践）	選必	辻、他	1 単位
		教育実践課題解決研究Ⅷ（教育実践）	選必	辻、他	1 単位
		教育実践課題解決研究Ⅴ（授業実践）	選必	徳田、他	1 単位

大分類	小分類	授業科目名	必修選択の別	担当者名	単位数
		教育実践課題解決研究VI（授業実践）	選必	徳田、他	1単位
		教育実践課題解決研究VII（授業実践）	選必	徳田、他	1単位
		教育実践課題解決研究VIII（授業実践）	選必	徳田、他	1単位
		教育実践課題解決研究 AV（ダイバーシティ）	選必	奥田、他	1単位
		教育実践課題解決研究 AVI（ダイバーシティ）	選必	奥田、他	1単位
		教育実践課題解決研究 AVII（ダイバーシティ）	選必	奥田、他	1単位
		教育実践課題解決研究 AVIII（ダイバーシティ）	選必	奥田、他	1単位
		教育実践課題解決研究 BV（ダイバーシティ）	選必	芦谷、他	1単位
		教育実践課題解決研究 BVI（ダイバーシティ）	選必	芦谷、他	1単位
		教育実践課題解決研究 BVII（ダイバーシティ）	選必	芦谷、他	1単位
		教育実践課題解決研究 BVIII（ダイバーシティ）	選必	芦谷、他	1単位

* 教育実践課題解決研究の履修は下記の型のいずれかとする。

【1年次春学期から本プログラムを履修する場合】

教育実践課題解決研究V，VI，VII，VIII（計4単位）を履修

【1年次秋学期から本プログラムを履修する場合】

教育実践課題解決研究I，VI，VII，VIII（計3単位）を履修

【2年次春学期から本プログラムを履修する場合】

教育実践課題解決研究I，II，VII，VIII（計2単位）を履修

＜授業科目表の見方＞

（例）　授業科目表

（1）学校経営力開発コース

科目区分		授業科目	単位数	必修選択の別	形式	対象年	担当教員	開講時期曜・時限	免許に関する区分					備考
									幼	小	中	高	特支	
共通科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	教育課程編成の理論と実践	2	必修	演	1	馬淵、山下、鈴村	春学期 月・1	○	○	○	○		
		授業実践の探究と教育課程	2	必修	演	1	山本（は）、村田（耕）	春学期 火・4	○	○	○	○		

上記「授業科目表」中の

「必修選択の別」の欄は修了要件上の区別を示しています。

「免許に関する区分」の欄は対応する専修免許状の校種を表示しています。なお、それぞれの表示が示しているものは、次表のとおりです。

免許に関する区分	幼	○	幼稚園の免許に関する授業科目を示す。
	小	○	小学校の免許に関する授業科目を示す。
	中	○	本専攻で取得できる中学校のすべての教科の免許に関する授業科目を示す。
	高	○	本専攻で取得できる高等学校のすべての教科の免許に関する授業科目を示す。
	特支	○	特別支援学校の免許に関する授業科目を示す。

<<専修免許状の取得に関する Q&A>>

<Q1>　小学校一種免許状及び中学校一種免許状（国語）を持って入学した 1 年次生ですが、本研究科で両免許を専修免許状にするための履修方法を教えてください。

<A>　授業科目表の免許に関する区分で、校種が小学校及び中学校に対応する授業科目を 24 単位履修し修得してください。なお、全授業科目が専修免許状の要件に対応するものではありませんので、小、中（国語）それぞれの免許状に照らして、24 単位の修得計画があることを確認してください。

<Q2>　専修免許状を取得見込の 2 年次生ですが、専修免許状の取得手続きはどのように予定したらよいですか。

<A>　基礎免許状を既に取得している場合（「検定」で取得している場合を除く。）は、大学から滋賀県教育委員会へ一括申請を行います。例年 10 月頃に教務係の窓口で所定の手続きをとっていただき、申請書類（※）をとりまとめ、最終的に要件が整った場合は滋賀県教育委員会から受領した教員免許状を、学位授与式の日に大学より交付します。

※申請書類の提出については、説明会日より 2 週間程度の期限になりますので留意願います。

基礎免許状を取得しておらず、学部の科目等履修生として一種免許状の要件を取得見込の場合は、大学からの一括申請ができませんので、個人申請で最寄りの都道府県の教育委員会へ申請していただきます。その際に必要となる証明書で、本研究科又は本学部で修得見込の単位は学力に関する証明書として発行準備をしますので、教務係に申し込んでください。例年、2 月中旬以降に受付を開始し、証明書の発行日について研究科分は最速で学位授与式の日、学部科目等履修に係る分は 2 月中旬以降になります。

Ⅲ　高度教職実践専攻開講授業科目表

＜専門職学位課程＞

1. 高度教職実践専攻

（1）学校経営力開発コース

科目区分		授業科目	単位数	必修選択の別	形式	対象年	担当教員	開講時期曜・時限	免許に関する区分 幼	小	中	高	特支	備考
共通科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	教育課程編成の理論と実践	2	必修	演	1	馬淵、山下、鈴村	春学期 月・1	○	○	○	○		
		授業実践の探究と教育課程	2	必修	演	1	山本（は）、村田（耕）	春学期 火・4	○	○	○	○		
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	確かな学力を伸ばす指導と評価	2	必修	演	1	馬淵、山下、鈴村	秋学期 月・1	○	○	○	○		
		メディア活用実践研究	1	必修	演	1	岩井、詫摩	秋学期 火・2	○	○	○	○		☆
		滋賀の教育課題と指導方法	1	必修	演	1	林(睦)、石川、奥田、久保、田中(満)、前田	秋学期 火・2						
	生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導・教育相談の理論と実践	2	必修	演	1	若松、芦谷、前田	春学期 火・3		○	○	○		一部集中
		ダイバーシティ教育の理論と実践	2	必修	演	1	窪田、山川（直）、三輪、児玉	秋学期 木・3	○	○	○	○		一部集中
	学級経営及び学校経営に関する領域	学びの基盤となる学級経営の探究	1	必修	演	1	蔵永、詫摩	秋学期 木・1	○	○	○	○		
		学校経営の理論と実践	1	必修	演	1	西野、田中(満)、村田（耕）	秋学期 木・1	○	○	○	○		
	学校教育と教員の在り方に関する領域	現代社会の課題と教員役割	2	必修	演	1	太田、馬淵、渡邊(慶)、田中(満)	春学期 火・2	○	○	○	○		
		学校教育におけるデータサイエンス	2	必修	演	1	若松、太田、篠原、山下、上出	春学期 木・1	○	○	○	○		☆
		学校教育におけるデータサイエンス演習	2	選択	演	1	久保、上出	春学期 木・4	○	○	○	○		☆
		教育実践のためのデータ分析	2	選択	演	1	詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 現職院生対象
		教育実践のためのデータサイエンス	2	選択	演	1	詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 現職院生対象
		授業実践のためのデータ分析	2	選択	演	1	徳田、詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 学卒院生対象
		授業実践のためのデータサイエンス	2	選択	演	1	徳田、詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 学卒院生対象
実習科目		経営課題解決基本実習Ⅰ	1	必修	実	1	コース担当教員等 ※	春学期 集中						
		経営課題解決基本実習Ⅱ	3	必修	実	1	コース担当教員等 ※	秋学期 集中						
		経営課題解決発展実習Ⅰ	2	選必2単位	実	2	コース担当教員等 ※	通年 集中						
		経営課題解決発展実習Ⅱ	2		実	2	コース担当教員等 ※	通年 集中	○	○	○	○		☆
		地域協働実習	2	必修	実	1	コース担当教員等 ※	通年 集中						
		教育行政実習	2	必修	実	1	コース担当教員等 ※	通年 集中						
		海外連携校実習Ⅰ	1	選択	実	1・2	コース担当教員等 ※	開講未定						
		海外連携校実習Ⅱ	1	選択	実	1・2	コース担当教員等 ※	休講						
コース別選択科目		学校組織マネジメント研究	2	必修	演	1	西野、前田	春学期 月・2	○	○	○	○		
		学校経営と教育リーダーシップ	2	必修	演	1	西野、田中(満)	春学期 月・3	○	○	○	○		
		教職員の職能開発システムに関する実践的研究	2	必修	演	1	藤村、田中(満)	春学期 木・3	○	○	○	○		
		カリキュラムマネジメントと校内研修	2	必修	演	1	西野、田中(満)	秋学期 月・2	○	○	○	○		
		教育政策・教育行政の理論と実践	2	必修	演	1	藤村、田中(満)、前田	秋学期 火・3	○	○	○	○		
		学校安全・学校危機管理に関する実践的研究	2	必修	演	1	糸乗、田中(満)	春学期 木・2	○	○	○	○		
		学校と地域の連携協働に関する実践的研究	2	選必2単位	演	1	西野、田中(満)	秋学期 木・2	○	○	○	○		◎
		教育法規の理論と実践	2		演	1	西野、渡邊(暁)、前田	春学期 月・4	○	○	○	○		◎

科目区分	授業科目	単位数	必修選択の別	形式	対象年	担当教員	開講時期曜・時限	免許に関する区分					備考
								幼	小	中	高	特支	
コース別選択科目	教育実践課題解決研究Ⅰ(経営)	1	選必4単位	演	1	指導教員等 ※	春学期 月・5						
	教育実践課題解決研究Ⅱ(経営)	1		演	1	指導教員等 ※	秋学期 月・5						
	教育実践課題解決研究Ⅲ(経営)	1		演	2	指導教員等 ※	春学期 水・5						
	教育実践課題解決研究Ⅳ(経営)	1		演	2	指導教員等 ※	秋学期 水・5						
	教育実践課題解決研究Ⅴ(経営)	1		演	1	指導教員等 ※	春学期 月・5	○	○	○	○		☆
	教育実践課題解決研究Ⅵ(経営)	1		演	1	指導教員等 ※	秋学期 月・5	○	○	○	○		☆
	教育実践課題解決研究Ⅶ(経営)	1		演	2	指導教員等 ※	春学期 水・5	○	○	○	○		☆
	教育実践課題解決研究Ⅷ(経営)	1		演	2	指導教員等 ※	秋学期 水・5	○	○	○	○		☆

注）1. 専門職学位課程の修了には、２年以上在学し、共通科目１８単位（必修）、実習科目１０単位（必修８単位、選択必修２単位）、コース別選択科目１８単位（必修１２単位、選択必修６単位）の計４６単位を修得しなければならない。加えて、教育実践力開発コース、授業実践力開発コース、ダイバーシティ教育力開発コースの各コース科目のうち、他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目（コース間連携科目）を修了要件を超えて履修可能な科目とする。

2. 「メディア活用実践研究」、「滋賀の教育課題と指導方法」、「学びの基盤となる学級経営の探究」、「学校経営の理論と実践」、「教育実践のためのデータ分析」、「教育実践のためのデータサイエンス」、「授業実践のためのデータ分析」、「授業実践のためのデータサイエンス」は、SUCCESSではシステムの都合上「集中」講義になっているが、履修登録の上限対象科目に含まれる。

3. 備考欄の◎はコース間連携科目を記す。

4. 備考欄の☆は「教職大学院 教育データサイエンス人材育成プログラム」関連科目を記す。詳細は別表２を参照

5. 担当教員欄の※は「実習の手引き」及び「課題解決研究指導教員名簿」参照

6. 担当教員欄の★は非常勤講師

(2)教育実践力開発コース

科目区分		授業科目	単位数	必修選択の別	形式	対象年	担当教員	開講時期曜・時限	免許に関する区分 幼	小	中	高	特支	備考
共通科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	教育課程編成の理論と実践	2	必修	演	1	馬淵、山下、鈴村	春学期 月・1	○	○	○	○		
		授業実践の探究と教育課程	2	必修	演	1	山本(は)、村田(耕)	春学期 火・4	○	○	○	○		
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	確かな学力を伸ばす指導と評価	2	必修	演	1	馬淵、山下、鈴村	秋学期 月・1	○	○	○	○		
		メディア活用実践研究	1	必修	演	1	岩井、詫摩	秋学期 火・2	○	○	○	○		☆
		滋賀の教育課題と指導方法	1	必修	演	1	林(睦)、石川、奥田、久保、田中(満)、前田	秋学期 火・2						
	生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導・教育相談の理論と実践	2	必修	演	1	若松、芦谷、前田	春学期 火・3		○	○	○		一部集中
		ダイバーシティ教育の理論と実践	2	必修	演	1	窪田、山川(直)、三輪、児玉	秋学期 木・3	○	○	○	○		一部集中
	学級経営及び学校経営に関する領域	学びの基盤となる学級経営の探究	1	必修	演	1	蔵永、詫摩	秋学期 木・1	○	○	○	○		
		学校経営の理論と実践	1	必修	演	1	西野、田中(満)、村田(耕)	秋学期 木・1	○	○	○	○		
	学校教育と教員の在り方に関する領域	現代社会の課題と教員役割	2	必修	演	1	太田、馬淵、渡邊(慶)、田中(満)	春学期 火・2	○	○	○	○		
		学校教育におけるデータサイエンス	2	必修	演	1	若松、太田、篠原、山下、上出	春学期 木・1	○	○	○	○		☆
		学校教育におけるデータサイエンス演習	2	選択	演	1	久保、上出	春学期 木・4	○	○	○	○		☆
		教育実践のためのデータ分析	2	選択	演	1	詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 現職院生対象
		教育実践のためのデータサイエンス	2	選択	演	1	詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 現職院生対象
		授業実践のためのデータ分析	2	選択	演	1	徳田、詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 学卒院生対象
		授業実践のためのデータサイエンス	2	選択	演	1	徳田、詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 学卒院生対象
実習科目		実践課題解決基本実習Ⅰ	1	必修	実	1	コース担当教員等 ※	春学期 集中						
		実践課題解決基本実習Ⅱ	3	必修	実	1	コース担当教員等 ※	秋学期 集中						
		実践課題解決発展実習Ⅰ	2	選必2単位	実	2	コース担当教員等 ※	通年 集中						
		実践課題解決発展実習Ⅱ	2		実	2	コース担当教員等 ※	通年 集中	○	○	○	○		☆
		研修開発実習	2	必修	実	1	コース担当教員等 ※	春学期 集中						
		教育委員会実習	2	選必2単位	実	1	コース担当教員等 ※	秋学期 集中						
		海外連携校実習Ⅰ	1		実	1・2	コース担当教員等 ※	開講未定						
		海外連携校実習Ⅱ	1		実	1・2	コース担当教員等 ※	休講						
コース別選択科目		教育方法の開発と実践研究	2	必修	演	1	山本(は)、山下、鈴村 ★岸田	春学期 集中	○	○	○	○		◎
		メンタリングと校内研修	2	必修	演	1	辻、鈴村	春学期 月・2		○	○	○		◎
		学校教育のアクションリサーチ	2	必修	演	1	馬淵、村田(耕)	秋学期 月・4	○	○	○	○		◎
		社会的・職業的自立を支援する進路指導とキャリア教育	2	必修	演	1	若松、前田	秋学期 月・3		○	○	○		◎
		教育実践課題解決研究Ⅰ(教育実践)	1	選必4単位	演	1	指導教員等 ※	春学期 月・5						
		教育実践課題解決研究Ⅱ(教育実践)	1		演	1	指導教員等 ※	秋学期 月・5						
		教育実践課題解決研究Ⅲ(教育実践)	1		演	2	指導教員等 ※	春学期 水・5						
		教育実践課題解決研究Ⅳ(教育実践)	1		演	2	指導教員等 ※	秋学期 水・5						
		教育実践課題解決研究Ⅴ(教育実践)	1		演	1	指導教員等 ※	春学期 月・5	○	○	○	○		☆
		教育実践課題解決研究Ⅵ(教育実践)	1		演	1	指導教員等 ※	秋学期 月・5	○	○	○	○		☆

科目区分	授業科目	単位数	必修選択の別	形式	対象年	担当教員	開講時期曜・時限	免許に関する区分					備考
								幼	小	中	高	特支	
	教育実践課題解決研究Ⅶ(教育実践)	1		演	2	指導教員等 ※	春学期 水・5	○	○	○	○		☆
	教育実践課題解決研究Ⅷ(教育実践)	1		演	2	指導教員等 ※	秋学期 水・5	○	○	○	○		☆
コース間連携科目	学校経営力開発コース、授業実践力開発コース、ダイバーシティ教育力開発コースの各コース科目のうち備考欄に◎印が付いている科目		選必 6単位		1・2								

注）1. 専門職学位課程の修了には、２年以上在学し、共通科目１８単位（必修）、実習科目１０単位（必修６単位、選択必修４単位）、コース別選択科目１２単位（必修８単位、選択必修４単位）、学校経営力開発コース、授業実践力開発コース、ダイバーシティ教育力開発コースの各コース科目のうち、他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目（コース間連携科目）の中から選択必修として６単位以上を履修し、計４６単位を修得しなければならない。

2. 「メディア活用実践研究」、「滋賀の教育課題と指導方法」、「学びの基盤となる学級経営の探究」、「学校経営の理論と実践」、「教育実践のためのデータ分析」、「教育実践のためのデータサイエンス」、「授業実践のためのデータ分析」、「授業実践のためのデータサイエンス」は、SUCCESSではシステムの都合上「集中」講義になっているが、履修登録の上限対象科目に含まれる。

3. 備考欄の◎はコース間連携科目を記す。

4. 備考欄の☆は「教職大学院 教育データサイエンス人材育成プログラム」関連科目を記す。詳細は別表２を参照

5. 担当教員欄の※は「実習の手引き」及び「課題解決研究指導教員名簿」参照

6. 担当教員欄の★は非常勤講師

(3)授業実践力開発コース

科目区分		授業科目	単位数	必修選択の別	形式	対象年	担当教員	開講時期曜・時限	免許に関する区分					備考
									幼	小	中	高	特支	
共通科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	教育課程編成の理論と実践	2	必修	演	1	馬淵、山下、鈴村	春学期 月・1	○	○	○	○		
		授業実践の探究と教育課程	2	必修	演	1	山本(は)、村田(耕)	春学期 火・4	○	○	○	○		
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	確かな学力を伸ばす指導と評価	2	必修	演	1	馬淵、山下、鈴村	秋学期 月・1	○	○	○	○		
		メディア活用実践研究	1	必修	演	1	岩井、詫摩	秋学期 火・2	○	○	○	○		☆
		滋賀の教育課題と指導方法	1	必修	演	1	林(睦)、石川、奥田、久保、田中(満)、前田	秋学期 火・2						
	生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導・教育相談の理論と実践	2	必修	演	1	若松、芦谷、前田	春学期 火・3		○	○	○		一部集中
		ダイバーシティ教育の理論と実践	2	必修	演	1	窪田、山川(直)、三輪、児玉	秋学期 木・3	○	○	○	○		一部集中
	学級経営及び学校経営に関する領域	学びの基盤となる学級経営の探究	1	必修	演	1	蔵永、詫摩	秋学期 木・1	○	○	○	○		
		学校経営の理論と実践	1	必修	演	1	西野、田中(満)、村田(耕)	秋学期 木・1	○	○	○	○		
	学校教育と教員の在り方に関する領域	現代社会の課題と教員役割	2	必修	演	1	太田、馬淵、渡邊(慶)、田中(満)	春学期 火・2	○	○	○	○		
		学校教育におけるデータサイエンス	2	必修	演	1	若松、太田、篠原、山下、上出	春学期 木・1	○	○	○	○		☆
		学校教育におけるデータサイエンス演習	2	選択	演	1	久保、上出	春学期 木・4	○	○	○	○		☆
		教育実践のためのデータ分析	2	選択	演	1	詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 現職院生対象
		教育実践のためのデータサイエンス	2	選択	演	1	詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 現職院生対象
		授業実践のためのデータ分析	2	選択	演	1	徳田、詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 学卒院生対象
		授業実践のためのデータサイエンス	2	選択	演	1	徳田、詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 学卒院生対象
実習科目		実践入門実習	1	必修	実	1	コース担当教員等 ※	春学期 集中						
		授業実践基本実習Ⅰ	2	必修	実	1	コース担当教員等 ※	通年 集中						
		授業実践基本実習Ⅱ	1	必修	実	1	コース担当教員等 ※	通年 集中						
		授業実践基本実習Ⅲ	1	必修	実	2	コース担当教員等 ※	春学期 集中						
		授業実践発展実習Ⅰ	2	選必2単位	実	2	コース担当教員等 ※	秋学期 集中						
		授業実践発展実習Ⅱ	2		実	2	コース担当教員等 ※	秋学期 集中	○	○	○	○		☆
		学校支援実習Ⅰ	1	選必3単位	実	1	コース担当教員等 ※	春学期 集中						
		学校支援実習Ⅱ	1		実	1	コース担当教員等 ※	秋学期 集中						
		学校支援実習Ⅲ	1		実	2	コース担当教員等 ※	春学期 集中						
		学校支援実習Ⅳ	1		実	2	コース担当教員等 ※	秋学期 集中						
		海外連携校実習Ⅰ	1	選択	実	1・2	コース担当教員等 ※	開講未定						
		海外連携校実習Ⅱ	1	選択	実	1・2	コース担当教員等 ※	休講						
コース別選択科目		教師のキャリア発達と教育実践	2	必修	演	1	太田、村田(耕)、山下	春学期 月・4	○	○	○	○		
		プログラミング教育の実践と教材開発	2	必修	演	1	岳野、右田、詫摩、山下	秋学期 月・4	○	○	○	○		☆
		初等言語教育の理論と実践	2	選必10単位	演	1	長岡、田中(佑)、鈴村	秋学期 月・2		○				◎
		言語教育実践と教材開発研究	2		演	1	松丸	春学期 木・2						◎
		古典教育と教材開発研究	2		演	1	井ノ口、伊崎	春学期 月・3						◎
		英米文学と英語科教材開発への応用	2		演	1	林(直)	春学期 木・3						◎
		言語学理論と英語科教材開発への応用	2		演	1	未定	休講						◎

科目区分	授業科目	単位数	必修選択の別	形式	対象年	担当教員	開講時期曜・時限	免許に関する区分 幼	小	中	高	特支	備考
コース別選択科目	初等社会科教育の理論と実践	2	選必4単位	演	1	安藤	秋学期 月・3		○				◎
	社会科・地理歴史科教材開発研究	2		演	1	宇佐見	春学期 木・2						◎
	社会科・公民科教材開発研究	2		演	1	渡邊(暁)、齋藤、宮本	秋学期 木・2						◎
	初等理数教育の理論と実践	2		演	1	渡邊(慶)、加納	春学期 木・3		○				◎ 一部集中
	理科の発展的理解と指導法	2		演	1	糸乗、大山、恒川、徳田、服部	春学期 金・1						◎
	理科観察実験研究「生命・地球」	2		演	2	服部、大山	春学期 金・4						◎
	理科観察実験研究「物質・エネルギー」	2		演	2	糸乗、恒川、徳田	秋学期 金・1						◎
	算数・数学科教材開発研究「数と形」	2		演	1・2	篠原、長谷川	秋学期 火・1						◎ 【隔年開講】奇数年度
	算数・数学科教材開発研究「関数」	2		演	1・2	神、鈴木	春学期 火・1						◎ 【隔年開講】奇数年度
	数学の歴史を活かした数学教育	2		演	1・2	篠原、長谷川	秋学期 火・1						◎ 【隔年開講】偶数年度
	数学の実験を活かした数学教育	2		演	1・2	神、鈴木	春学期 火・1						◎ 【隔年開講】偶数年度
	初等体育科教育の理論と実践	2		演	1	辻、大平、山田	秋学期 月・2		○				◎ 一部集中
	体力科学実践研究	2		演	1	辻	休講						◎
	健康科学実践研究	2		演	1	大平、辻	春学期 火・1						◎ 一部集中
	初等生活科・家庭科教育の理論と実践	2		演	1	石川、久保、田中(宏)、平松、森	春学期 火・5		○				◎
	家庭科教育教材開発研究	2		演	1	久保、田中(宏)、平松	秋学期 火・3						◎
	技術科教育教材開発研究	2		演	1	岳野、水上、森	春学期 金・3						◎
	初等芸術教育の理論と実践	2		演	1	林(睦)、村田(透)	春学期 木・2		○				◎
	美術科教材開発研究「造形表現」	2		演	1	藤田、世ノー	春学期 火・5						◎
	美術科教材開発研究「美術鑑賞」	2		演	1	藤田、世ノー、馬淵	秋学期 火・5						◎
	音楽科教材開発研究「表現」	2		演	1	渡邊(史)	春学期 火・1						◎
	音楽科教材開発研究「鑑賞」	2		演	1	中根	春学期 月・3						◎
	教育実践課題解決研究Ⅰ(授業実践)	1		演	1	指導教員等 ※	春学期 月・5						
	教育実践課題解決研究Ⅱ(授業実践)	1		演	1	指導教員等 ※	秋学期 月・5						
	教育実践課題解決研究Ⅲ(授業実践)	1		演	2	指導教員等 ※	春学期 水・5						
	教育実践課題解決研究Ⅳ(授業実践)	1		演	2	指導教員等 ※	秋学期 水・5						
	教育実践課題解決研究Ⅴ(授業実践)	1		演	1	指導教員等 ※	春学期 月・5	○	○	○	○		☆
	教育実践課題解決研究Ⅵ(授業実践)	1		演	1	指導教員等 ※	秋学期 月・5	○	○	○	○		☆
	教育実践課題解決研究Ⅶ(授業実践)	1		演	2	指導教員等 ※	春学期 水・5	○	○	○	○		☆
	教育実践課題解決研究Ⅷ(授業実践)	1		演	2	指導教員等 ※	秋学期 水・5	○	○	○	○		☆

注) 1. 専門職学位課程の修了には、２年以上在学し、共通科目１８単位（必修）、実習科目１０単位（必修５単位、選択必修５単位）、コース別選択科目１８単位（必修４単位、選択必修１４単位）の計４６単位を修得しなければならない。加えて、学校経営力開発コース、教育実践力開発コース、ダイバーシティ教育力開発コースの各コース科目のうち、他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目（コース間連携科目）を修了要件を超えて履修可能な科目とする。

2. 「メディア活用実践研究」、「滋賀の教育課題と指導方法」、「学びの基盤となる学級経営の探究」、「学校経営の理論と実践」、「教育実践のためのデータ分析」、「教育実践のためのデータサイエンス」、「授業実践のためのデータ分析」、「授業実践のためのデータサイエンス」は、SUCCESSではシステムの都合上「集中」講義になっているが、履修登録の上限対象科目に含まれる。

3. 備考欄の◎はコース間連携科目を記す。

4. 備考欄の☆は「教職大学院 教育データサイエンス人材育成プログラム」関連科目を記す。詳細は別表２を参照

5. 担当教員欄の※は「実習の手引き」及び「課題解決研究指導教員名簿」参照

6. 担当教員欄の★は非常勤講師

(4)ダイバーシティ教育力開発コース

科目区分		授業科目	単位数	必修選択の別	形式	対象年	担当教員	開講時期曜・時限	免許に関する区分 幼	小	中	高	特支	備考
共通科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	教育課程編成の理論と実践	2	必修	演	1	馬淵、山下、鈴村	春学期 月・1	○	○	○	○		
		授業実践の探究と教育課程	2	必修	演	1	山本(は)、村田(耕)	春学期 火・4	○	○	○	○		
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	確かな学力を伸ばす指導と評価	2	必修	演	1	馬淵、山下、鈴村	秋学期 月・1	○	○	○	○		
		メディア活用実践研究	1	必修	演	1	岩井、詫摩	秋学期 火・2	○	○	○	○		☆
		滋賀の教育課題と指導方法	1	必修	演	1	林(睦)、石川、奥田、久保、田中(満)、前田	秋学期 火・2						
	生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導・教育相談の理論と実践	2	必修	演	1	若松、芦谷、前田	春学期 火・3		○	○	○		一部集中
		ダイバーシティ教育の理論と実践	2	必修	演	1	窪田、山川(直)、三輪、児玉	秋学期 木・3	○	○	○	○		一部集中
	学級経営及び学校経営に関する領域	学びの基盤となる学級経営の探究	1	必修	演	1	蔵永、詫摩	秋学期 木・1	○	○	○	○		
		学校経営の理論と実践	1	必修	演	1	西野、田中(満)、村田(耕)	秋学期 木・1	○	○	○	○		
	学校教育と教員の在り方に関する領域	現代社会の課題と教員役割	2	必修	演	1	太田、馬淵、渡邊(慶)、田中(満)	春学期 火・2	○	○	○	○		
		学校教育におけるデータサイエンス	2	必修	演	1	若松、太田、篠原、山下、上出	春学期 木・1	○	○	○	○		☆
		学校教育におけるデータサイエンス演習	2	選択	演	1	久保、上出	春学期 木・4	○	○	○	○		☆
		教育実践のためのデータ分析	2	選択	演	1	詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 現職院生対象
		教育実践のためのデータサイエンス	2	選択	演	1	詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 現職院生対象
		授業実践のためのデータ分析	2	選択	演	1	徳田、詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 学卒院生対象
		授業実践のためのデータサイエンス	2	選択	演	1	徳田、詫摩、奥村	秋学期 木・4・5	○	○	○	○		☆ 学卒院生対象
実習科目		ダイバーシティ教育基本実習	2	必修	実	1	コース担当教員等 ※	春学期 集中	○	○				
		特別支援実習	1	必修	実	1	コース担当教員等 ※	通年 集中					○	
		フィールドワーク実習	2	必修	実	1	コース担当教員等 ※	通年 集中						
		心理アセスメント実習	1	必修	実	2	コース担当教員等 ※	通年 集中					○	現職院生はM1で一部を受講可とする
		ダイバーシティ教育発展実習Ⅰ	4	選必4単位	実	2	コース担当教員等 ※	通年 集中						
		ダイバーシティ教育発展実習Ⅱ	4		実	2	コース担当教員等 ※	通年 集中	○	○	○	○		☆
		海外連携校実習Ⅰ	1	選択	実	1・2	コース担当教員等 ※	開講未定						
		海外連携校実習Ⅱ	1	選択	実	1・2	コース担当教員等 ※	休講						
コース別選択科目		スペシャルニーズ教育の理論と実践	2	必修	演	1	窪田、村田(耕)	春学期 月・3					○	◎
		子どもの心の臨床心理学的理解と支援	2	必修	演	1	芦谷、村田(耕)	秋学期 火・5	○	○	○	○		◎ 一部集中
		心理的アセスメントと子ども支援	2	必修	演	1	松島、芦谷	秋学期 火・4					○	一部集中
		外国人児童生徒教育の理論と実践	2	コース別選択科目及びコース関連携科目より8単位選必※	演	1	児玉、滝井	秋学期 火・3		○	○			◎
		特別支援教育の臨床的探究	2		演	1	窪田、山川(直)	春学期 木・2					○	◎
		幼年教育の理論と実践	2		演	1	奥田、山川(直)、大矢	秋学期 木・2	○					◎
		教育・保育の方法と省察	2		演	1	山本(一)、大矢	春学期 集中	○					◎
		特別支援教育授業研究	2		演	1・2	★白石	春学期 集中					○	◎ 【隔年開講】奇数年度
		障害児の発達診断・発達相談演習	2		演	1・2	★白石	春学期 集中					○	◎ 【隔年開講】偶数年度
		多様な教育的ニーズの理解と協働的な対応	2		演	1・2	窪田	秋学期 集中					○	◎
		障害児の心理と学校教育	2		演	1・2	松島	春学期 集中					○	◎ 【隔年開講】奇数年度

科目区分	授業科目	単位数	必修選択の別	形式	対象年	担当教員	開講時期曜・時限	免許に関する区分 幼	小	中	高	特支	備考
コース別選択科目	障害児の心理と子ども支援	2	AⅠ～AⅧ又はBⅠ～BⅧ選必4単位	演	1・2	松島	春学期集中					○	◎【隔年開講】偶数年度
	特別支援教育の教育方法学的探究	2		演	1・2	羽山	春学期集中					○	◎【隔年開講】偶数年度
	特別支援教育の現代的実践と課題	2		演	1・2	羽山	秋学期集中					○	◎【隔年開講】偶数年度
	障害児の音楽活動と支援	2		演	1・2	林(睦)	通年集中					○	◎
	子どもの発達と支援	2		演	1	渡部、山川(夏)	春学期集中	○	○	○	○		
	教育実践課題解決研究AⅠ(ダイバーシティ)	1		演	1	指導教員等 ※	春学期月・5	○					
	教育実践課題解決研究AⅡ(ダイバーシティ)	1		演	1	指導教員等 ※	秋学期月・5	○					
	教育実践課題解決研究AⅢ(ダイバーシティ)	1		演	2	指導教員等 ※	春学期水・5	○					
	教育実践課題解決研究AⅣ(ダイバーシティ)	1		演	2	指導教員等 ※	秋学期水・5	○					
	教育実践課題解決研究AⅤ(ダイバーシティ)	1		演	1	指導教員等 ※	春学期月・5	○	○	○	○		☆
	教育実践課題解決研究AⅥ(ダイバーシティ)	1		演	1	指導教員等 ※	秋学期月・5	○	○	○	○		☆
	教育実践課題解決研究AⅦ(ダイバーシティ)	1		演	2	指導教員等 ※	春学期水・5	○	○	○	○		☆
	教育実践課題解決研究AⅧ(ダイバーシティ)	1		演	2	指導教員等 ※	秋学期水・5	○	○	○	○		☆
	教育実践課題解決研究BⅠ(ダイバーシティ)	1		演	1	指導教員等 ※	春学期月・5					○	
	教育実践課題解決研究BⅡ(ダイバーシティ)	1		演	1	指導教員等 ※	秋学期月・5					○	
	教育実践課題解決研究BⅢ(ダイバーシティ)	1		演	2	指導教員等 ※	春学期水・5					○	
	教育実践課題解決研究BⅣ(ダイバーシティ)	1		演	2	指導教員等 ※	秋学期水・5					○	
	教育実践課題解決研究BⅤ(ダイバーシティ)	1		演	1	指導教員等 ※	春学期月・5	○	○	○	○		☆
	教育実践課題解決研究BⅥ(ダイバーシティ)	1		演	1	指導教員等 ※	秋学期月・5	○	○	○	○		☆
	教育実践課題解決研究BⅦ(ダイバーシティ)	1		演	2	指導教員等 ※	春学期水・5	○	○	○	○		☆
	教育実践課題解決研究BⅧ(ダイバーシティ)	1		演	2	指導教員等 ※	秋学期水・5	○	○	○	○		☆
コース間連携科目	学校経営力開発コース、教育実践力開発コース、授業実践力開発コースの各コース科目のうち備考欄に◎印が付いている科目		※		1・2								

注）1. 専門職学位課程の修了には、２年以上在学し、共通科目１８単位（必修）、実習科目１０単位（必修６単位、選択必修４単位）、コース別選択科目１８単位（必修６単位、選択必修１２単位）の計４６単位を修得しなければならない。なお、コース別選択科目の選択必修８単位には、学校経営力開発コース、教育実践力開発コース、授業実践力開発コースの各コース科目のうち他コースの学生も履修可能な科目として設定されている科目（コース間連携科目）を選択することも可能。

2. 「メディア活用実践研究」、「滋賀の教育課題と指導方法」、「学びの基盤となる学級経営の探究」、「学校経営の理論と実践」、「教育実践のためのデータ分析」、「教育実践のためのデータサイエンス」、「授業実践のためのデータ分析」、「授業実践のためのデータサイエンス」は、SUCCESSではシステムの都合上「集中」講義になっているが、履修登録の上限対象科目に含まれる。

3. 備考欄の◎はコース間連携科目を記す。

4. 備考欄の☆は「教職大学院 教育データサイエンス人材育成プログラム」関連科目を記す。詳細は別表２を参照

5. 担当教員欄の※は「実習の手引き」及び「課題解決研究指導教員名簿」参照

6. 担当教員欄の★は非常勤講師

Ⅳ　課題解決研究指導教員名簿

【研究者教員】

■学校経営力開発コース

西野　倫世	准教授
藤村　祐子	准教授

■教育実践力開発コース

辻　延浩	教授
馬淵　哲	教授
山本　はるか	准教授
若松　養亮	教授

■授業実践力開発コース

石川　俊之	教授
糸乗　前	教授
太田　拓紀	教授
久保　加織	教授
篠原　雅史	教授
鈴木　宏昌	教授
岳野　公人	教授
徳田　陽明	教授
長岡　由記	教授
長谷川　武博	教授
林　睦	教授
村田　透	教授
森　太郎	教授
山田　淳子	准教授
渡邊　慶子	准教授

■ダイバーシティ教育力開発コース

芦谷　道子	教授
奥田　援史	教授
窪田　知子	教授
松島　明日香	准教授
渡部　雅之	教授

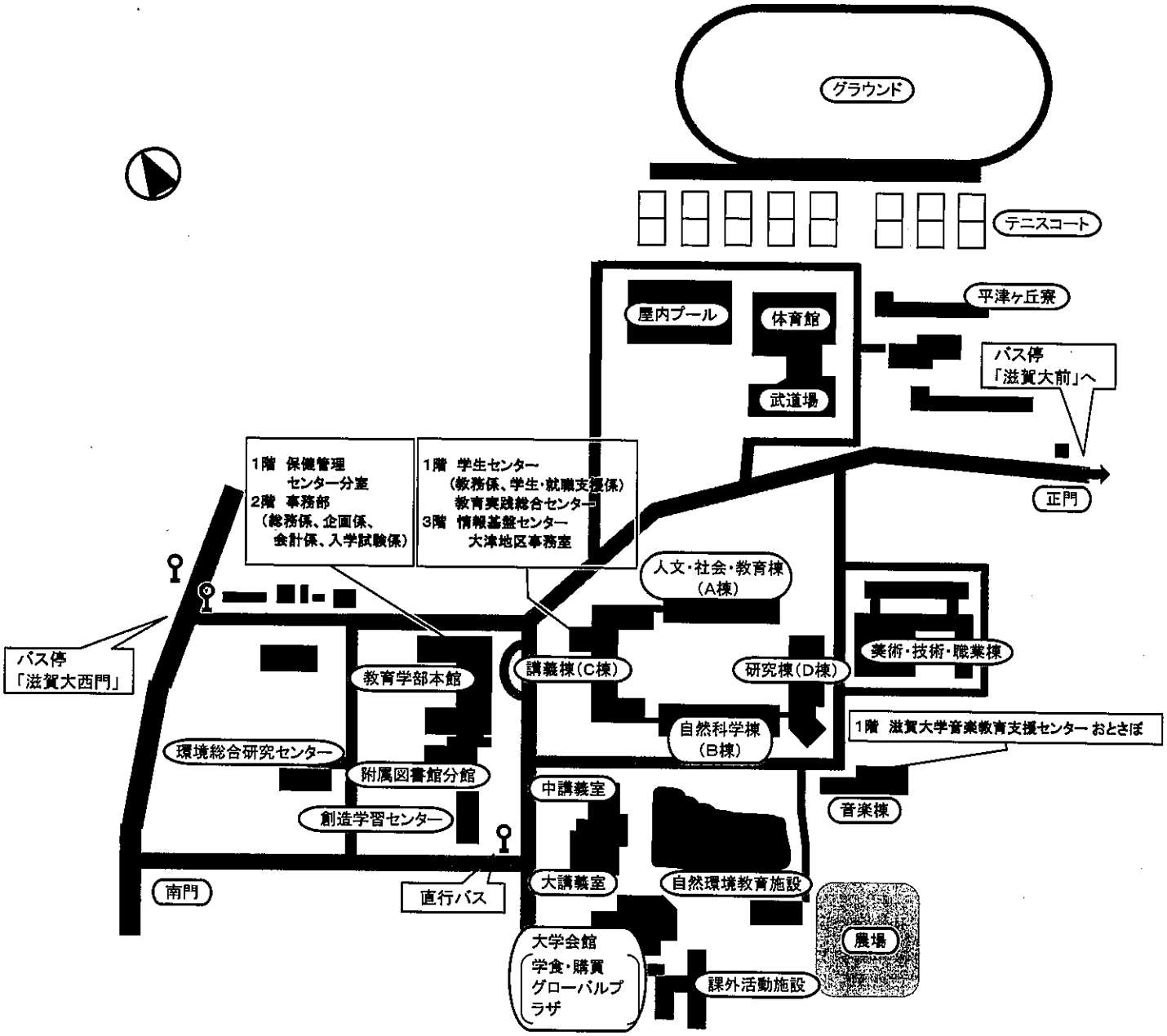
【実務家教員】

上出　吉則	講師
大矢　明	教授
鈴村　愛子	准教授
詫摩　京未	准教授
田中　満	教授
西　孝俊	准教授
前田　利幸	教授
村田　耕一	准教授
山川　直孝	准教授
山川　夏子	准教授
山下　亮	准教授

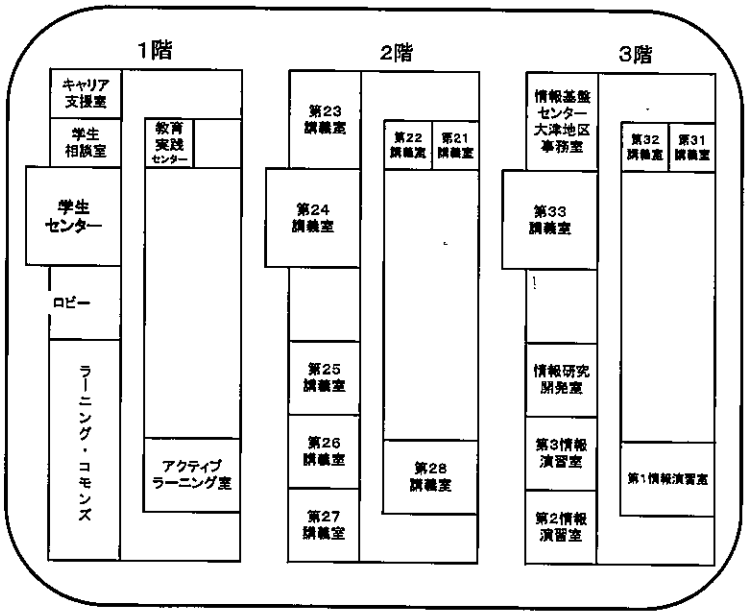
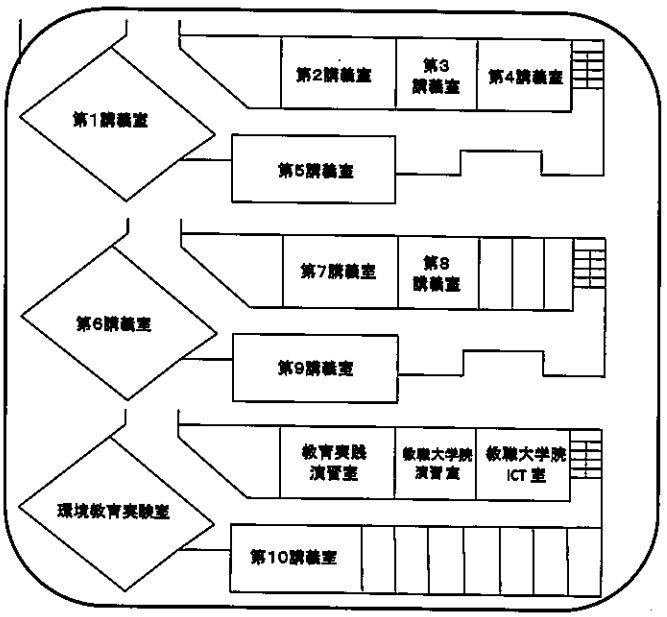
【データサイエンス教員】

飯山　将晃　教授
奥村　太一　准教授　ほか

教育学部校舎配置図



講義棟（C棟）教室配置図



研究棟（D棟）教室配置図